

# 市内米軍施設の返還と跡地利用の推進

(総務省・外務省・財務省・国土交通省・防衛省)

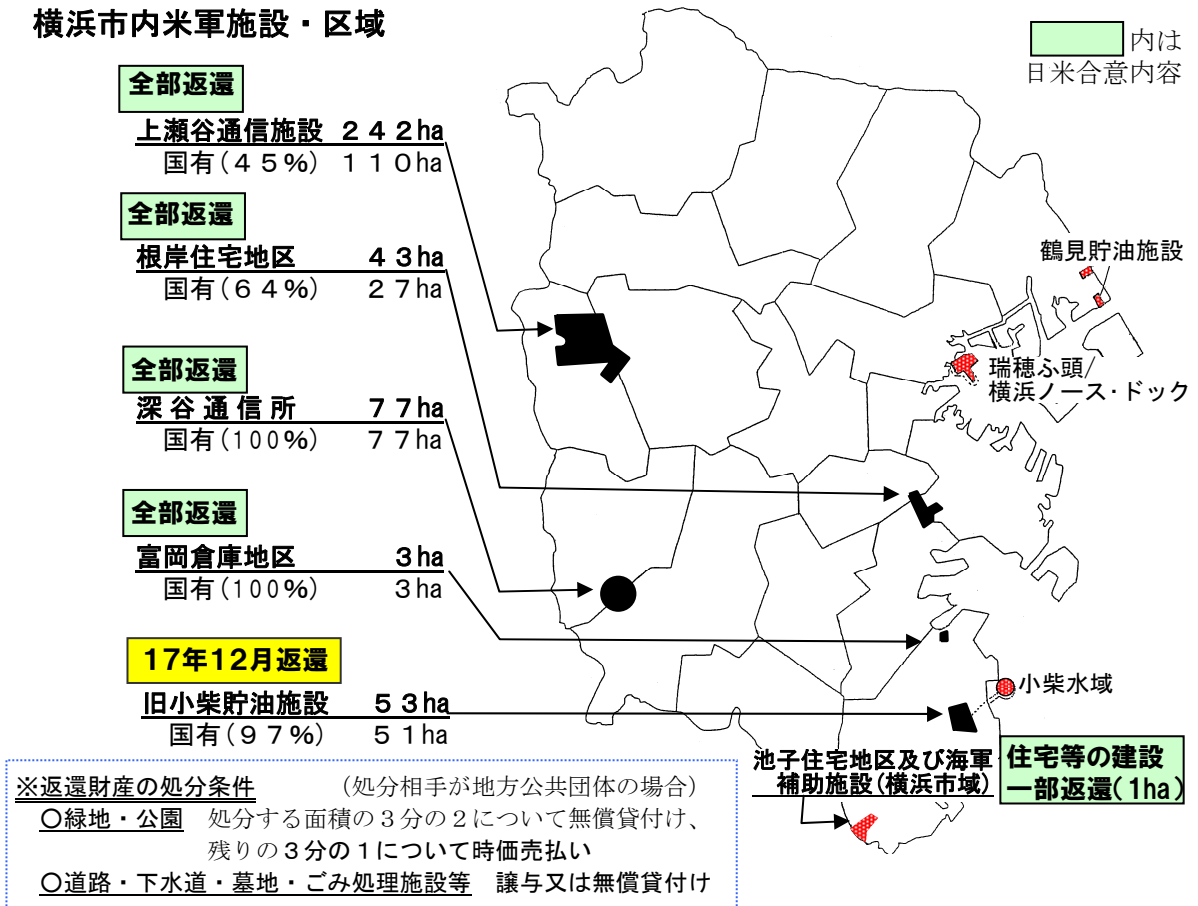
## 【提案内容】

- 1 市内米軍施設・区域の早期全面返還を促進すること。
  - (1) 返還方針が合意された富岡倉庫地区等の早期返還
  - (2) 瑞穂ふ頭をはじめとする他の施設・区域の返還促進
- 2 返還跡地を活用した緑の保全・創出等に協力すること。
  - (1) 水・緑環境、防災など、国施策への明確な位置付け
  - (2) 国有地の無償利用など、地方公共団体への配慮
  - (3) 旧小柴貯油施設における150周年記念植樹への協力

## 【提案の背景】

- ・ 横浜市は、来年（平成21年）、横浜開港150周年を迎える。これを契機とした市内米軍施設の返還と跡地利用の推進に取り組んでいる。
- ・ 16年10月に、日米間で、市内8施設のうち6施設を対象とする返還の方針が合意され、17年12月に小柴貯油施設の返還が実現した。
- ・ この合意施設のうち、富岡倉庫地区は長年米軍が常駐しておらず、今年になり、深谷通信所では困障区域外のアンテナ撤去、上瀬谷通信施設では全居住者の移転及び住宅関連施設の閉鎖が行なわれた。
- ・ 返還跡地をモデルに、国は、18年度に水・緑環境、防災等の広域的な保全・活用方策について調査検討を行ない、現在は、国土形成計画（首都圏広域地方計画）への跡地の位置付け等について協議を進めている。
- ・ 横浜市は、20年7月に、国から「環境モデル都市」に選定された。低炭素社会の実現に向け、緑地の増大等による都市熱の減少など、脱温暖化の取組を進めている。
- ・ このような中、旧小柴貯油施設については、開港150周年の森の整備を目指すとともに、国有地への記念植樹の実施について検討している。

○ 横浜市内米軍施設・区域



○ 旧小柴貯油施設における植樹候補地

